

広報 すぎなみ

Suginami



支えあい共につくる  
安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並

{ 3/15 }  
平成30年(2018年)  
No.2225

杉並から世界へ。  
目指せ、次のステージ。

「努力はうそをつかない」——そう信じて厳しい練習に耐え、全国制覇を成し遂げた高校生たちが、杉並にはいます。全国大会を2連覇した佼成学園高等学校アメリカンフットボール部と、インターハイ・国体の両大会で2連覇を果たした文化学園大学杉並高等学校ソフトテニス部の中心メンバーに、夢を追い続けた3年間を振り返っていただきました。

特集



すぎなみピト

文化学園大学杉並高等学校  
ソフトテニス部  
林田リコ・宮下こころ

佼成学園高等学校  
アメリカンフットボール部  
影山元・北川太陽



Contents — 主な記事 —

7 | 住宅宿泊事業(民泊)に関するルールを策定しました 9 | ご存じですか ひとり親家庭等子育て支援 16 | 南相馬市からのメッセージ

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 | ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) | 🌐 区ホームページ: <http://www.city.suginami.tokyo.jp/> | 📄 発行: 杉並区 | 📝 編集: 広報課

広報すぎなみは月2回(1・15日)発行。新聞折り込みのほか、区の施設・駅・コンビニエンスストアなどの広報スタンドに設置しています。

# 試合は、いつも勝ちたいから楽しむ。楽しめば 結果はついてくる。

—皆さん、全国制覇おめでとうございます。夢がなかったですね。

北川：高校に入学したときから、チームで日本一になりたいと、ひたすら努力してきたので本当に夢がなかったんです。

影山：僕も、スターティングメンバーになり、チームに尽くして日本一になりたいと、ずっと思い続けてきました。

宮下：私たちも同じです。入学して、先輩たちの「日本一に絶対なる」という意識も伝わってきて、自分たちもインターハイでの優勝を目指して頑張ってきました。

林田：私とこころ（宮下さん）が知り合ったのは中学生のとき。ソフトテニスの全日本アンダー14（14歳以下）の合宿中に借りのものを、石川県のこころの家に送ったら返事の手紙が届いて、そこに「一緒に文大（文化学園大学杉並高等学校）に行って、日本一になろう」と書いてあったんです。

影山・北川：すごい出会い。そんなことってあるんだ。

—全国制覇できた勝因は、どこにあると考えていますか。

影山：僕たちの代は1年生から試合に出ているメンバーが多く、その分、知識や経験が豊富だと思っていたので、「勝てる」と自信を持って試合に臨みました。

北川：負けて悔しい思いをするのは絶対に嫌だったし、無敗でどうやって圧倒して勝つかということ目標であり挑戦でした。試合中でも常に新しいことに挑戦して、それを達成したときが一番楽しかった。そんな姿勢によっても強くなれたと思います。

林田：「試合は、いつも楽しく。楽しめば結果はついてくるから、とにかく楽しみなさい」という先生方のアドバイスを忘れず実践した結果だと考えています。でも、「練習も楽しく」と、甘いだけになってしまうので、練習は「厳しく」と「楽しく」の両方があるようにしようと気を付けていました。また、「勝たなきゃ」という気持ちに縛られてしまうのではなく、「勝ちたい」と考えることを大切にしていました。

宮下：監督が、昔から初心者を育てて日本一にするようなすごい方でしたし、コーチは経験豊富で、いろいろなことを知っている方でした。だから監督やコーチを信じて試合に臨めば勝てると思っていたら、本当に勝つことができました。入部してすぐは大変なことや悔しいことがあるとすぐに泣いてしまう私でしたが、体も心も鍛えられて、強い気持ちで試合に立ち向かえるようになりました。人として成長させてもらったことも、厳しい試合に勝てるようになった理由の一つではないかと思っています。

—自分の成長を実感したのですね。

林田：私もです。2年生の後半からキャプテンを務めたのですが、昔からあいさつや会話が得意じゃなかったのもあって、部員たちに声



影山：僕もキャプテンとして、林田さんとまったく同じ経験をしました。81名の部員を引っ張っていかなければならないのに、最初は自分の思ったように動いてくれず苦戦しました。でも、夏合宿で何度もミーティングを開いて、チーム全体の目標や課題の共有を図った結果、チームの気持ちがまとまり、動いてくれるようになりました。もともと僕も人と話すことが得意ではありませんでしたが、キャプテンの仕事を通

掛けなければいけないのに、うまくいかずに戸惑ってばかりでした。でも、少しずつ慣れて、3年生になってからは自分から話し掛けて、伝えたいことを伝えられるようになりました。

して経験を重ねていくうちに、みんなと意思疎通ができるようになったような気がします。

—杉並で過ごした時間を振り返ると、どんな思い出がありますか。

北川：高校入試の日、学校までの案内標識がたくさんあって「なんて便利な街なんだ」と思ったことを覚えています。それに街の人も丁寧に道を教えてくれて、優しかったなあ。

影山：そうそう、優しい人が多いよね。僕はスーパーマーケットを利用したとき、買い物をしているとおじいさんやおばあさんが声を掛けてきて「こっちの方が安いよ」と教えてくれるんですよ。それから、和田堀公園の隣にあるグラウンドで毎日、練習したのも思い出です。緑が多くて、夏も涼しくて、スポーツに打ち込む環境としては最適でした。

林田：通学で利用していた、高円寺や阿佐谷の街はテレビで見たお店があちこちにあり、いつ行っても楽しそうな雰囲気があるふれていて気に入っています。阿佐谷では有名人を見掛けたことがあるんですよ。



それはすごい。僕たちは年末年始は優勝の余韻に浸っていました。

3年間、お菓子禁止だったんだ。僕たちなら死活問題だったかも(笑)。

部活は厳しかったな。お菓子も禁止だったし。

「優勝おめでとう」の日は、いつもどおり練習でした。

影山元 北川太陽 宮下こころ 林田リコ

宮下：住んでいた寮が学校から歩いて5分の距離だったので、高校生活の大半を杉並で過ごしたことになりますね。杉並はとても暮らしやすくて、3年間、充実した毎日を送ることができました。



—アメリカンフットボール（以下「アメフト」）やソフトテニスの魅力や楽しさを教えてください。

宮下：ソフトテニス面白いのは、なんといっても打つコースの読み合いをするところです。私はベアの前衛を務めているのですが、読みが当たると相手が打つボールを簡単に打ち返すことができます。それが次々に決まると、相手チームを圧倒してゲームを優位に進めていくことができます。

北川：アメフトもそう。単純に見えるかもしれないけど、実はめちゃくちゃ頭を使っていて、読み合いや戦術の選び方によって勝敗が変わってきます。そんな知的な部分が一番の魅力だと僕は思います。柔軟な発想がビッグプレーにつながることもあるので、僕は他のスポーツのプレーや戦術をアメフトに応用できないかと、普段からいつも考えています。

影山：ポジションがたくさんあり、その一つ一つに異なる役割があるアメフトは、誰もが自分に合うポジションを見つけて楽しめるスポーツです。そこが大きな魅力だと思います。

林田：私がソフトテニスをいいなと思うのは痛くないところです。影山君や北川君には「何それ」と言われそうだけど(笑)。子どものころに空手や別の球技をやっていたのですが、痛くて嫌で、すぐに辞めてしまいました。それから、痛いことがないスポーツをやりたいと思い、小さいときに経験したソフトテニスを再びやりたいてい思いました。

—4月からは、いよいよ大学生です。競技も続けられるそうですが、これからの抱負をお願いします。

林田：今年、アジア競技大会があるので、日本代表になって金メダルを取れるように頑張ります。

宮下：私もアジア競技大会での金メダルが大きな目標です。また、大学生になって環境も変わるので、自分のことは自分でできるようになりたいです。

影山：大学は部員が多く、選手層も厚いですが、1年生からスターティングメンバーになれるように頑張りたいと思います。

北川：中学、高校と日本一を経験してきたので、大学でも絶対に日本一を取りたい。そして、いつかは世界を舞台にして戦えるような選手になりたいと思います。

## 佼成学園高等学校 (和田2丁目) アメリカンフットボール部

関東大会優勝4回（春2回、秋2回）、全国大会優勝2回を誇る、高校アメリカンフットボールの強豪校。28年12月にクリスマスボウル（全国高等学校アメリカンフットボール大会決勝戦）に初出場し、初優勝を果たす。29年にもクリスマスボウルに出場し、関西大学第一高等学校を破り優勝。2年連続2度目の全国制覇となった。29年は、シーズンを通して負けなしだった。



影山元（かげやま・げん）。茨城県古河市出身。11年生まれ。父の勧めで小学生のときアメリカンフットボールを始める。チームでは、攻撃的ポジションのオフエンスタックルを務める。

北川太陽（きたがわ・たいよう）。神奈川県横浜市出身。11年生まれ。友人の影響を受けて小学生のときフットボールを始める。チームでは、守備的ポジションのラインバッカーを務める。

宮下こころ（みやした・こころ）。石川県鹿島郡中能登町出身。11年生まれ。両親の勧めで小学生のときソフトテニス始める。林田リコさんとのペアでは前衛を務める。

林田リコ（はやしだ・りこ）。東京都板橋区出身。12年生まれ。両親の勧めで小学生のときソフトテニス始める。宮下こころさんとのペアでは後衛を務める。



## 文化学園大学杉並高等学校 (阿佐谷南3丁目) ソフトテニス部

全日本高校選抜大会優勝3回、全国高校総体（インターハイ）優勝2回、国民体育大会（国体）優勝2回を誇る、高校ソフトテニスの名門校。28年にインターハイ初優勝。同年、全日本高校選抜大会と国体でも優勝し、「高校三冠」を達成した。29年にはインターハイ（個人・団体）と国体で連覇を果たしたほか、林田・宮下ペアが皇后杯全日本選手権大会で優勝。同大会で高校生が優勝したのは67年ぶり。